



3/19 天野さん 民生・児童委員全国組織の会長に

天野隆玄さん(3丁目)が各都道府県の民生委員児童委員協議会を構成団体として組織される全国民生委員児童委員連合会会長に就任されました。昭和43年に民生委員児童委員の委嘱を初めて受け、以後、下田市の会長、静岡県会長の副会長を務められてきました。全国23万2千人の民生委員児童委員のトップとして今後の活躍が期待されます。



2/25 リバーフレンドシップ制度

吉佐美区(石井登区長)、河内区(山下達夫区長)、下田自動車学校(藤井皓社長)の3団体と「リバーフレンドシップ制度」に関する同意書が締結されました。この制度は、県と市とが地域住民の皆さんと共に進めていく河川美化活動で、市内では初の調印となります。



3/18 地域の福祉に役立ててください

朝日小学校福祉委員会の児童4名が市役所を訪れ、1年間全学年で取り組んできたアルミ缶回収(総重量は1,313キロ)にて得た収益金7万円を、福祉に役立てて欲しいと市長に手渡しました。



3/16 地産地消の拡大を

地場農林産物のPRと消費拡大を目的に、農林フェスティバルが下田駅前広場で開かれました。新鮮な地場産物の即売のほか、さいころゲームや抽選会なども行われ多くの市民や観光客で賑わいました。



2/28 自衛隊入隊者を激励

今春、下田市内から自衛隊に入隊する10名の激励会が市民文化会館で開催されました。来賓からの激励の言葉を受けた若者たちの顔からは希望と決意が感じられました。国民の安全安心のためにがんばってください。

- 1日 ごみひろいしましよ
- 6~26日 3月定例市議会
- 9日 健脳ウォーキング教室
- 14~16日 市民大学祭(作品展)
- 16日 農林フェスティバル

OPENING

- 18日 おもてなしフォーラム
- 20日 風の花祭りオープニング
- 21日 戦没者慰霊祭
- 27日 お吉祭り
- 31日 下田開港記念まちあるき

下田市内の指定文化財③

市指定有形民俗文化財

仏谷の十六羅漢と三十三観音

所在地 吉佐美 宝徳院仏谷
指定日 昭和51年5月27日

宝徳院の正面に向かって右側には仏谷と呼ばれる十六羅漢像と三十三観音像が収められた岩山があります。



仏谷の三十三観音像

羅漢とは

インドの古代サンスクリット語で仏教の悟りを得た人々を表すアルハットが中国語で阿羅漢と訳され、それが省略されて羅漢となったものです。十六羅漢とは釈迦の弟子のなかでも悟りをひらいた特に優れた代表的な十六人の弟子のこと、十六羅漢像にお参りすると大きな果報が得られると考えられています。

仏谷の十六羅漢像は、いず

れも高さ60センチメートル程度、比較的柔らかい凝灰岩をまる彫りし、精密な彫刻が施されています。人間くささも感じられるような個性豊かな表情が特徴で、この像に触れてお参りすると、足や腰などの痛みが消え失せると伝えられる膝を抱いた羅漢さんもあり、地域の人々に親しまれています。

観音とは

正式には観世音菩薩、観自在菩薩といひ、三十三種類の観音に姿を変えて人々を救ってくれると信じられています。

仏谷の観音像は、美しい線ではつきりと表現された素朴な像で、地域の人たちをはじめ近在の人たちからも信仰を集めています。

十六羅漢像と三十三観音像のつくられた時代については正確にはわかりませんが、点在する石仏の間に建てられている石碑に地元吉佐美村のほか、立野村、青野村などの人々の名前と文化8年(1811)、文政9年(1826)の年号が見られます。この石碑と石

仏が同じ時代のものかは不明ですが、およそこの時代に次々に収められたものと考えられています。

下田の5丁目にある「元理源寺跡三十三観音」は西国三十三観音を写して奉納したと記した文政12年(1829)の石塔があります。江戸時代後期、文化、文政の時代この地域にも、熱心な信者によって西国三十三観音霊場を写した観音霊場が造られたものと考えられます。

また、両石仏群とも大規模な石切丁場の近くにあるという所も共通しています。江戸時代中期から、この地域の一大産業となった伊豆石の生産には多くの石工や関連する職業に従事する人がかわり、大変活気に満ちた様子が想像されます。そのような石のかかわりの中から生まれた庶民信仰を物語る文化遺産として非常に貴重な石仏群であると言えます。

アクセス 伊豆急下田駅より南伊豆方面行きバス吉佐美バス停下車徒歩5分
問合せ先 教育委員会生涯学習課
☎5055

樹のまち vol.73

河津桜とバラのまち河津・石廊と里山と自然いっぱい南伊豆・那賀川河畔沿いに咲き誇る桜並木、花とロマンの里松崎・日本開国のまちとして世界にその名を知られた下田。長い間、観光ライバルとして競ってきたこの4つのまちが魅力的な1つのまちとして生まれ変わる。こんな夢を描いて、昨年末に1市3町の首長が、平成22年3月までの合併新法の期限内に合併を目指すことを合意しました。

議会の否決に納得しない多くの住民から、合併をして欲しいとの署名が寄せられ、松崎町の深沢町長は3月臨時議会を招集して再提案をしましたが、再度否決されました。またしても暗礁に乗り上げた合併問題。昨年「地域住民のためにはこの合併は絶対必要で、お互い地域工を出さず協調しながら、よいまちづくりをしたい」と合意してきただけに、話し合いの場をつくることまで否定する松崎町議会の決定が誠に残念であります。松崎町民からは「西伊豆3町村の合併が崩れた時も残念だと思つた。町内に単独を望む人は少ないはずだし、今回はチャンスだった。まずは協議のテーブルにつくべきだった。議会の判断にがっかりした」との声もあり、合併に向けてしっかりと可決した1市2町議会のことを考えると、松崎町議会にはもう一度住民の皆さんの声を傾け再考をお願いしたいと思つています。住民発議による合併協定の請求の話も聞こえてきております。1%でも可能性があるならば最後の最後まで松崎町に積極的な努力をしていただきたいと思います。

下田市長 石井直樹

